

平成 29 年 10 月 20 日

白保公民館 館長 殿

株式会社 石垣島白保ホテル&リゾート
代表取締役 識名 安信

平成 29 年 9 月 15 日付書類でのご質問の件（回答）

平成 29 年 9 月 15 日付に照会のあった件について回答いたします。

<未回答の質問>

1. 浄化槽処理水の浸透と中水利用の割合と想定量については詳細設計が完了していないためお答えできません。
2. 中水利用の用途および想定配分量については詳細設計が完了していないためお答えできません。
3. 開発区域に隣接する太陽光発電施設の所有者は下記になります。
所 有 者：ビットプロパティ株式会社
管理・保守：株式会社日建ハウジング
4. 公共測量水準点高 EL±0.00 から 1FL までの高さを示しております。
5. 間違いありません。今後、詳細設計の際に調整する可能性があります。
6. 現地の土壌や地下水位、浸透性等についてはボーリング調査および透水試験の結果により決定しております。

<回答文書に対して疑義の指摘と再回答の要請>

1. 利用客・スタッフ及び搬入業者の想定交通量について、レンタカー利用率 90%、白保区間通過を 95%と仮定した場合およびスタッフ・搬入業者等の白保区間通過を 90%と仮定した場合を以下に示します。

【利用客】

滞在客のレンタカー利用率 90%と仮定

年平均：151 組×90%=136 組

繁忙期：191 組×90%=172 組

このうち、白保区間を通過する可能性を 95%と仮定した場合

年平均：136 組×95%=129 台 129 台×2（往復）=258 台

繁忙期：172 組×95%=163 台 163 台×2（往復）=326 台

【スタッフ／搬入業者】

スタッフ及び搬入業者等の白保区間を通過する割合を 90%と仮定した場合

スタッフ：80 名（仮定）×90%×2（往復）=144 台

搬入業者：10台×90%×2（往復）=18台

◇白保集落～ホテル間の通過交通量

年平均：258台+144台+18台=420台/日

繁忙期：326台+144台+18台=488台/日

上記結果を踏まえ、ホテル完成後の白保区を通過する交通量増加数は420～488台/日と推測されます。

「新空港開港前のデータを基に増加量を述べる趣旨が理解できない」との事でしたが、5年毎に更新される国交省の一般交通量調査によれば、当該路線区間の交通量は平成22年度で5,324台/日、平成27年度では4,762台/日と減少傾向にあります。両データを基に推計すると、平成22年度交通量および平成27年度交通量から8～10%の増加が予測されます。

なお、沖縄県では現在、集落内を通過する交通量の低減を図るため、「一般県道石垣空港線」を着工しており、計画では平成30年度頃に開通予定です。

2. 八重山保健所との協議については平成29年8月10日付文書で回答した通りです。なお、八重山保健所とは詳細設計の後にあらためて協議を行う予定になっております。
3. 浄化槽の1日あたりの処理水は、施設利用人数と建築用途別による尿尿浄化槽の処理対象人員算定基準(JIS A3302-2000)の合算により200m³/日を想定しております。
4. BODとSSの7%増加について
 - ① 白保集落の前面海域を想定しております。
 - ② 昭和60年当時の水質データは保有しておりませんが、人口状況において現在と同様の汚水処理を行っていたと仮定し推測しております。
 - ③ 国交省の「浄化槽の構造基準・同解説」によると、実装置（浸透施設）の調査結果から汚水中の成分は表層部に比較的広く広がり、その範囲は水平距離として約1m、垂直深さで0.7mであったとあります。しかし、地下浸透処理における濾過希釈効果について定量的な科学的知見に乏しいため、効果については不確実性を伴います。そこで、本計画においては出来る限り海側から離れた位置に浸透施設を設置します。
 - ④ ⑤ 工事開始前と共用開始後（1～2回/年程度）に環境調査（水質調査）を行う予定です。

<開発事業計画書の送付について>

開発行為許可申請に係る計画書については、白保公民館と弊社においてNDS（守秘義務契約）を締結する事が可能であれば現状の計画書をご提出いたします。

以上